

# -九州建設技術交流会だより-

## 会長挨拶

九州建設技術交流会会長

(九州地方整備局企画部長) 森北 佳昭氏



本日は、今年度の第1回九州建設技術交流会にたくさんの方にご出席頂き誠に有り難うございます。今回の参加希望者は120名を超えており、心から感謝を申し上げますと共に嬉しい気持ちでございます。この交流会は昨年度から開催され、昨年度は4回開催致しましたが、各回とも非常にたくさんの方にご参加して頂きました。また、出席者が毎回100名を超えるということは、この交流会に対する期待の大きさであると感じています。昨年度の3回目及び4回目は、パネルディスカッションにて総合評価落札方式について意見交換会を行いました。非常に熱心な議論になり、有意義なものだと感じました。

今回は4名の方に話題提供していただいた後、「新技術の利活用推進」について、九州大学の善先生に座長をして頂き、産学官のパネリストによる意見交換を行う予定です。昨今の日本の状況から考えますと、産学官の連携が重要で、産学官それぞれの立場で知恵を出し合い、一つの目標に向かって力を合わせて取り組むことが大事であると思います。この交流会は、産学官の皆様が垣根を超えて意見交換を行う有意義な場であると思います。皆様には最後までご静聴して頂き、そして議論にも参加して頂き、産学官で情報共有することで一層連携を図りたいと思います。本日は限られた時間ではございますが、皆様方の熱心な参加を心より期待して挨拶とさせていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

### 《プログラム概要》 H21.6.15

- 挨拶：九州地方整備局企画部長 森北 佳昭
- 話題提供：
  - ①「宮崎県耳川水系の水力発電所の被災と整備の現状」  
九州電力株式会社土木部 奥 武之
  - ②「九州新幹線松原線路橋 下部工回転施工と上部工曲線送出し」  
九州旅客鉄道株式会社施設部 加藤 勇氣
  - ③「福岡新技術新工法活用促進制度の概要」  
福岡県県土整備部企画交通課 樋口 憲治
  - ④「進化する鋼橋」  
日本橋梁建設協会構造技術部会 荒川 正彦
- 「新技術の利活用推進」に関する意見交換
- 閉会



【交流会の開催状況】

～4名の皆様に話題提供していただきました～

#### 「宮崎県耳川水系の水力発電所の被災と整備の現状」

九州電力株式会社土木部

奥 武之 氏



奥氏の話は、平成17年台風14号による耳川水系の水力発電所の被災状況と、現在目指している「安全で災害に強い耳川の取り組み」についての報告でした。

この未曾有の災害に対する復旧方針や今後とも水力発電を継続していく様々な対策について、行政や地元と連携・協力し、ダム改造・運用の変更、ダム調整池内に位置する諸塚中心部の河川改修計画、ダム調整池周辺の崩壊斜面对策、環境モニタリングと土砂管理計画、森林保全への対応、大規模水力総合更新工事などの取り組みについて紹介がありました。

#### 「九州新幹線松原線路橋

下部工回転施工と上部工曲線送出し」

九州旅客鉄道株式会社施設部

加藤 勇氣 氏



加藤氏の話は、鹿児島本線及び久大本線の上空を交差して渡る橋長1243mの線路橋において、下部工及び上部工の施工方法についての報告でした。下部工では、狭隘な施工ヤードと回転台の位置などの施工面の問題と、大型クレーンを使用することによる費用面の問題により、「横梁回転工法」が採用されました。上部工においては、クレーン架設や横取り架設では狭隘な施工ヤードや桁重量の問題により、工程や経済性は不利と予測されましたが、「縦取り架設」を採用されました。今回の工法を採用した結果、下部工16橋脚は無事に完了し、現在は上部工の送り出しを施工されています。

## 「福岡新技術新工法活用促進制度の概要」

福岡県県土整備部企画交通課  
樋口 憲治 氏



樋口氏の話は、福岡県が整備している制度である「福岡新技術・新工法活用促進制度」についての紹介でした。国土交通省が整備している NETIS が全国を対象とした情報提供であるのに対し、地域性や実用性を踏まえて福岡県が独自で作成した制度です。この県独自の制度は、申請を躊躇している県内の小規模企業にも幅広く浸透させることが期待されます。

今後の課題としては、制度を創設してから3年目なので、国土交通省や他の都道府県の制度を参考に改善を図っていくことと、試行工事やフィールド工事等の制度化を検討していきたいとのことでした。

## 「進化する鋼橋」

日本橋梁建設協会構造技術部会  
荒川 正彦 氏



荒川氏の話は、近年日本橋梁建設協会が取り組んでいる項目や実績についての紹介でした。

経済性、耐久性、安全性、施工性を追求し、日々進化し続ける鋼橋として、より使い易く、より剛く、より長く、より自由に、より速く、より優しくという6つのキーワードの基に、合成床版、細幅箱桁橋、複合ラーメン橋、鋼床版桁橋、急速施工立体交差橋、耐候性鋼橋梁を紹介されました。また、少数1桁橋は、耐久性を向上させ、メンテナンス性を向上したライフサイクルコストの極小化を実現した工法として紹介されました。

## ～「新技術利活用促進」に関する意見交換～

今年度第1回目の意見交換会は、九州大学の善先生を座長に産学官4名の方をパネリストに招き「新技術の利活用促進」に関するテーマのうち「NETISの制度」、「技術開発者に対するインセンティブ」について議論がなされました。

産からの意見としては、「新技術の開発にはコストがかかるので、開発コストを回収できる仕組みを整備してほしい」、「総合評価における NETIS の位置付けとして、開発中や申請中などの準備中の技術についても加点対象としてはどうか」、「実際に新技術を使用した現場の声を NETIS の中で反映させるべきだ」などがありました。

学からの意見としては、「新技術の開発や採用を促す仕掛け作りが必要だ」、「財政が厳しいからコスト縮減という考え方はやめるべきだ」、「誰が何を基準にどう評価したのか透明化にするべきだ」などがありました。

一方、官からは、インセンティブについて「現在、総合評価方式や工事成績評定において加点を行っている」、「評価会議等によって有用な技術と認められた場合、設計比較対象技術や活用促進技術といった位置付けをしている」などの解答がありました。NETIS の制度については、整備局より今後評価情報の充実を図るため、活用効果調査表の作成と回収の徹底や、年4回の評価会議を確実にするなど、改善策が示されました。

今回の意見交換では、それぞれの立場で忌憚のない意見が出され、非常に有意義な場であったと思われます。



【意見交換会の様子】



## ☆☆意見交換会参加者☆☆

座長：

九州大学大学院教授 善 功企氏

パネリスト：

佐賀大学名誉教授 荒牧軍治氏

(株)千代田コンサルタント 村上 健氏

(株)さとうベネック 竹内一博氏

国土交通省九州地方整備局企画部 逆瀬川方久氏

## 【事務局より】

当交流会事務局は産学官より事務局員を選出いただき協働の事務局として運営しております。九州での新技術の開発・活用・普及等へのご意見やご要望などがございましたら、お気軽に下記事務局までお寄せください。なお、次回第2回九州建設技術交流会は、長崎市内で開催する予定です。皆様方のご参加をお待ちしております。

## 【発行者】九州建設技術交流会

官 = 九州地方整備局企画部機械施工管理官  
TEL : (092)471-6331 FAX : (092)476-3483

学 = 九州大学大学院工学研究院  
TEL : (092)802-3372 FAX : (092)802-3372

産 = (社)九州建設技術管理協会  
TEL : (092)471-0189 FAX : (092)414-0767  
E-mail : kouryukai@kyugikyoo.or.jp

事務局